

話題のニュートラック新製品情報・新情報

CNG車…いすゞ自動車

## 長距離輸送が可能な大型トラック「ギガCNG車」を発表 CNG車ならではの環境性能で環境負荷低減に貢献

いすゞ自動車(株)は、大型トラック「ギガCNG車」を2015年12月24日に発表した。

いすゞは、これまで小・中型トラックや路線バスといった都市部の短・近距離輸送向けのCNG車を展開してきたが、今回、長距離輸送が可能な大型トラックのCNG車を新たに投入した。燃料の多様化を図ることで、エネルギーセキュリティ



長距離輸送を可能にした大型トラック「ギガCNG車」

に貢献するだけでなく、都市間トラック輸送でのCO<sub>2</sub>排出量を低減し、NOx排出量が少なく、PMをほとんど排出しないCNG車ならではの環境性能で、環境負荷の低減に貢献することになる。

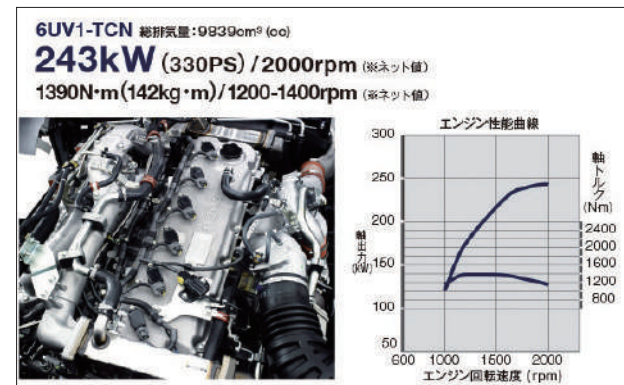
今回、一部車型のみの販売でスタートし、来年夏以降、順次車型追加とともに本格投入を予定している。

### ■ギガCNG車の主な特長

◇2015年10月にフルモデルチェンジした新型ギガのキャブを採用。

◇一回のガス充填で東京～大阪間の走行が可能。

◇エンジンは燃料供給装置にMPI(マルチポイントインジェクション)方式を採用した、新型6UV1エンジンを搭載。各気筒の吸気ポートにインジェクタを配置し、燃料の噴射量やタイミングの精密制御により、走行状況に応じて空気と燃料の



ギガCNG車に搭載されるエンジン

比率を最適にコントロールすることで、三元触媒によるNOx、NMHC、COの排出を抑える高い浄化性能や、都市間走行で使いやすいパワー&トルクと省燃費性能を確保。

◇トータルセキュリティによる安全性の向上を図り、プリクラッシュブレーキでは、衝突被害軽減ブレーキ機能に加え、移動障害物に対する衝突回避支援機能を標準装備。

◇また、車線逸脱警報(LDWS)、ミリ波車間ウォーニング、IESC(電子式車両姿勢制御システム)、EBS電子ブレーキシステムも標準装備。

なお、年間目標販売台数は100台。東京地区希望小売価格は、QFG-CYL78B-VX-M型、ポスト新長期排出ガス適合、平成21年低排出ガス車認定取得、プリクラッシュブレーキ・ミリ波車間ウォーニング・車線逸脱警報(LDWS)・IESCを標準装備、6UV1-TCNエンジン搭載7速MTのキャブ付きシャシで27,428,760円(消費税込)となっている。



ギガCNG車のシャシ

話題のニュートラック新製品情報・新情報

高所作業車…アイチコーポレーション

## 自走式高所作業車4機種を モデルチェンジし同時に発売

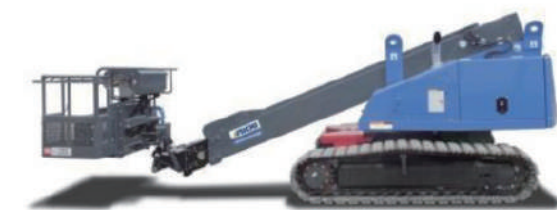
(株)アイチコーポレーション(本社:埼玉県上尾市、三矢金平社長)は、造船・建築・設備メンテナンス現場で好評の自走式高所作業車のうち、作業床最大地上高10m~12mのホイールタイプ「SP10CSN/SP12CSN」および、クローラタイプ「SR10CSM/SR12CSM」をそれぞれモデルチェンジし、2016年1月から販売を開始した。

### ■製品の主な特長

(1)オフロード法2014年基準に適合した新エンジンを採用【SP10/12CSN(ホイールタイプ)】…オフロード法2014年基準に適合した新エンジンの搭載で、環境負荷を低減。また作動速度に合わせて、最適なエンジン

回転数を自動的に調整するオートアクセル制御方式を採用。

自走式高所作業車「SP12CSN」



自走式高所作業車「SR12CSM」

(2)他揚程機種と同様の操作レバーを採用【SP10/12CSN(ホイールタイプ)、SR10/12CSM(クローラタイプ)】…正確な操作ができるように、19m・21mクラスと同様のレバー配置を採用。他揚程の機種でも、使いやすさや安全性の向上、操作ミスの防止に役立つ。

(3)バー式セーフティスイッチの採用【SP10/12CSN(ホイールタイプ)、SR10/12CSM(クローラタイプ)】…バスケットが構造物への押付け等により変形した場合でも作動可能。ワイヤー式と比較し、安全性を確保できる。

### ■主要諸元・標準価格

形式	SP10CSN	SP12CSN	SR10CSN	SR12CSN
走行体	ホイール	ホイール	クローラ	クローラ
作業床最大積載荷重	250kg	250kg	200kg	250kg
作業床最大地上高	9.9m	12.0m	9.8m	12.1m
最大作業半径	8.8m	10.0m	8.0m	10.7m
消費税込標準価格	19,440千円	20,520千円	17,280千円	18,360千円

話題のニュートラック新製品情報・新情報

ETC2.0車載器…デンソー

## 「経路情報を活用したサービス」の利用が可能な GPS付発話型ETC2.0車載器(一般用)を新発売

株式会社デンソー(本社:愛知県刈谷市、有馬浩二社長)



GPS付発話型ETC2.0車載器(一般タイプ)



(GPS内蔵ETCアンテナ)

は、ETC2.0で今後導入が予定されている「経路情報を活用したサービス」に対応するGPS付発話型ETC2.0車載器(一般用)を2016年1月

末に新たに発売する。

今回新たに発売する製品は、業界最小クラスの小型ETCアンテナにGPSが内蔵されており、ETC2.0に対応するカーナビゲーションやスマートフォンがなくても、車載器単体で「経路情報を活用したサービス」の利用が可能となる。また、音声で案内することができる発話型のため、刻一刻と変化する道路状況に対応して、最適なタイミングで、運転支援サービスが提供できる。さらに、従来のETC車載器と同等サイズのコンパクト設計で、かつ、12V・24V兼用のため乗用車から大型車両まで幅広く対応可能である。



なお、ETC2.0で導入が予定されている「商用車の運行管理サービス」「特殊車両の通行許可の簡素化」などに対応する業務支援用のETC2.0車載器は、3月頃の発売を予定している。

ETC2.0では、道路に設置されたITSスポットと通信することにより、従来の料金収受や、渋滞回避、安全運転支援などの情報提供サービスに加え、高速道路で渋滞を迂回(うかい)する経路を走行した車両の料金を優遇する制度などの「経路情報を活用したサービス」が導入される予定となっている。また、今回発売となるGPS付発話型ETC2.0一般用車載器は、3月発売予定の業務支援用とは異なり、ユーザーのプライバシー保護のため出発・到着地点周辺の位置情報をITSスポットに提供しない方式のもので、「特殊車両の通行許可の簡素化」にも対応していない。

## ■主な仕様

◇型名…DIU-A010、◇外形寸法&重量…本体寸法・幅約70mm×高さ約97mm×奥行約17mm／アンテナ寸法・幅約28mm×高さ約16mm×奥行約35mm／本体重量・本体：約101g、アンテナ：64g(ケーブル含む)、◇電源部…動作電圧DC12/24兼用(10～32V)、消費電流500mA以下(12V/25℃時)、配線3線(+B、ACC、E)、◇ヒューマンインターフェース部…LED表示・処理OK時：緑色LED点灯／処理NG時：橙色LED点灯・点滅、告知音・内蔵スピーカーによる音声案内&ブザー音、カードコネクタ・全収納式、履歴確認・最大100件(音声案内)、◇環境仕様…保存温度範囲・マイナス40℃～90℃／動作温度範囲・マイナス30℃～85℃、◇メーカー希望小売価格…オープン価格。



米国で好調な伸びを見せるウェスタンスター

グローバル・チームのすばらしい業績によるものです。私は従業員の努力に感謝します」と述べている。さらに同氏はダイムラー・トラックの将来展望について、「2016年も厳しい状況が続くでしょう。しかし当社では、2020年の販売台数目標を70万台に設定しています」と語った。

さらに、「ただ傍観しているという選択肢は当社にはありません。私たちは戦略を実行に移すことに注力し続けます。今年ドイツで開催される『IAA国際モーターショー2016』では、技術進化を続けている車両のコネクティビティ、効率性、アクティブセーフティ、自律走行などの当社の高い技術力を披露します。また6つの新しいリージョナル・センターを活用し、グローバルプレゼンスを高めると同時にお客様により近いところでサービスを提供します。さらに、パワートレインに加えて、グローバル共通プラットフォーム戦略の拡大にも大きな可能性を見出しています」と話している。

## ■北米の販売台数が大幅増

世界販売台数増加に大きく貢献したのは北米地域である。堅調な市場と強力な製品により、記録的な販売台数を達成する見込みだ。2015年1月～11月期は20%増の17万6100台(前年14万7200台)となった。マーケットシェアはクラス6-8で39.1%(前年37.3%)に増加しており、前年に引き続き市場をけん引している。

ダイムラー・トラック製品の北米市場での成功要因のひとつは、搭載されているパワートレインの利点が、ユーザーに認められたことによる。エンジン、トランスミッション、アクスルの完全調和により、燃料効率が向上しているからだ。ダイムラー・トラックは北米市場で初めてこうしたパワートレインを投入している。DT12オートマチック・トランスミッション・システムが、成功の重要な鍵となっている。販売中のフレートライナー「Cascadia」およびウェスタンスター「5700XE」の40%以上は、同システムを搭載しており、販売実績は2014年の倍に達した。北米の需要増に迅速に対応するため、2015年11月から同シ



バーラト・ベンツ(Bharat Benz 3143)



バーラト・ベンツ(Bharat Benz 3128)

テムのデトロイトでの現地生産を開始。同市場向けの中型エンジンも2018年以降にデトロイトで生産することになっている。これにダイムラーは、合計約4億5千万ユーロを投資している。

## ■西欧は年間通して堅調

西欧でも販売台数を11ヶ月間の実績で5万6000台(前年5万500台)まで伸ばした。成長ペースは、年間通して顕著に増加している。メルセデス・ベンツは、中・大型トラック部



ふそトラック(FUSO FI)

## 話題のニュートラック新製品情報・新情報

## 世界販売…ダイムラー

# 世界最大手のトラックメーカーであるダイムラーが2015年に50万台以上のトラックを販売

ドイツのシュツットガルトに本拠を構えるダイムラー・トラックは、2015年の世界販売が、一部状況が困難な市場があったにもかかわらず、2015年12月初頭実績で50万台に達した。2014年は、メルセデス・ベンツ、FUSO、フレートライナー、ウェスタンスター、トーマス・ビルト・バス、バーラト・ベンツの各ブランドで49万5700台だった。2015年度の最終販売台数は、2016年2月4日のダイムラーAGの年次記者会見で発表されることになっている。

ダイムラー・トラックは、市場環境のばらつきにより一部困難な市場があったが、目標を達成したことになる。北米および欧

州のトラック市場は大幅増加したが、重要市場であるブラジルとインドネシアは落ち込んだ。トルコでは、過去数ヶ月間の政情不安で市場は後退、特に2015年11月～12月は大幅に悪化した。こうした状況の中、ダイムラー・トラックは、強力な製品と卓越した販売活動により目標を達成したことになる。

ダイムラーの取締役ウォルフガング・ベルンハルト商用車部門総責任者は、「当社は2015年、50万台以上のトラックを販売し、販売台数は3年連続で増加しています。一部市場は非常に困難でしたが、優れた製品により、ダイムラー・トラック史上、最高の年を迎えることができます。これはすべて当社



新型ベンツ・アクトロス



世界各国で走っているベンツのアクトロス



門で市場での独走を続けており、シェアは21.9% (24.6%)となった。

トルコは景況と政情が不安定だが、前年の高水準(1万8900台)を上回り、2015年1月～11月期で2万400台に達した。一部は2016年1月1日に発効される欧州の排出ガス規制「ユーロ6」をにらんだ駆け込み需要の効果とも考えられる。ただその勢いは徐々に低下しており、2016年も低下していくと見ている。

## ■冷え込むブラジル市場でもシェアは増加

中南米での販売台数は11ヶ月間の実績で2万7900台(前年4万4500台)に留まっている。減少は主に、ブラジル市場の急激な落ち込みが原因だ。ブラジルでは2015年1～11月で1万5200台が出荷されたが、前年同期は3万300台あった。このような厳しい市場環境にも関わらず、ダイムラー・トラックは中・大型トラック部門でシェアを26.6%(前年26.0%)とやや拡大させた。

市場は現時点で冷え込んでいるが、ダイムラー・トラックは、同市場で長期的に競争力を高めていくため、投資を継続していくとしている。2014年～2018年の4年間で、生産ネットワークの近代化、カスタマイズ製品、技術、サービスに約5億ユーロを投資する計画だ。2015年10月、メルセデス・ベンツはブラジルで、現地生産の「Accelo」、「Atego」、「Axor」、「Actros」の快適性、燃費、運行コストにおいて更なる改善を行い市場に投入している。ただ市況は、2016年も引き続き改善の見込みがないと予想されている。

## ■アジア市場の販売実績

アジアでは2015年、各市場で販売実績に大きな差が見られた。日本ではFUSOブランドが販売台数を4%増やし、4万1600台(前年3万9000台)、シェアは20.7%(前年20.3%)に増加した。急激な落ち込みを見せているインドネシアでは、2万9400台(前年5万1400台)に激減している。一方でシェアは48.2%(前年47.2%)まで増加した。

インドの販売台数は29%増の1万2500台(前年9千700台)となった。2012年9月の市場参入以来、累計3

万台以上が出荷されている。2015年に発表した鉱山・建設現場向けの超大型モデル「3143」も、バーラト・ベンツのシェア拡大に貢献した。

シェアは中・大型トラック部門で7.1%(前年5.9%)まで拡大している。インド製の車両は、アジア・アフリカ地域の成長市場を開拓する上で重要な役割を果たしている。ダイムラー・トラックは2015年に、チェンナイの工場から新たに10カ国に向けて輸出を開始した。同工場からは現在、合計20以上の市場に出荷されている。2016年には、各国のニーズに合わせたこれらのFUSOトラックの供給先をさらに拡大していく予定になっている。

## ■6つの新リージョナル・センターによりグローバルサービスを強化

ダイムラーは今後、アフリカ、アジア、中南米で顧客により近いところでの事業展開を行い、有望市場の成長機会を捉えていく計画だ。2015年10月に、6つのリージョナル・センターの初となる拠点をドバイに開設している。リージョナル・センターは、商用車販売とカスタマーサービスを行っている。

2016年第1四半期には、中央アフリカ地域の統括拠点としてケニア、アフリカ南部として南ア・プレトリア、東南アジアとしてシンガポールにも開設する予定だ。ダイムラーは同センターを活用して、ユーザーニーズにより迅速に、また市場ニーズに沿ったやり方で対応していくとしている。

## ■2015年の技術革新…「ハイウェイ・パイロット」により半自律走行を実現

ダイムラー・トラックは2015年、自律走行分野での先駆的な役割をさらに促進させた。2015年5月に、フレートライナーの「Inspiration Truck」が、米・ネバダ州での公道走行実験を許可されたが、自律走行トラックに路上走行許可が与えられたのは世界で初めとなる。

その5ヶ月後には、メルセデス・ベンツ「Actros」に半自律走行システム「ハイウェイ・パイロット」を搭載した自律走行車両を使用して、初の公道試験走行を開始。高速道路では「ハイウェイ・パイロット」がトラックを自動操作するが、すべての責任はドラ

イバーが負っている。ドライバーは交通状況を常時モニターし、随時介入できる状態であればならない。このため、「ハイウェイ・パイロット」は、航空機で一般に使用されているオートパイロットと比較することができる。同システムには、前方搭載レーダーとステレオ・カメラ、またACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)などの実証済みの支援システムも搭載されている。これらの技術を公道でも使用できるように適合させ、すべてのコンポーネントが相互に完璧に動作するように、広範囲にわたるテストを繰り返し返してきた。「ハイウェイ・パイロット」は、ドイツと米国ですでに約2万kmの試験走行を実施している。同技術が2～3年以内に生産段階に入ることも同社では視野に入れている。



自動運転機能を搭載した大型トラック「フレートライナー・インスピレーション・トラック」

### 話題のニュートラック新製品情報・新情報

### ロシア子会社…いすゞ自動車

## 成長が見込めるロシア市場の事業強化を目的に 出資比率を上げソラーズ・いすゞを連結子会社に

いすゞ自動車(株)は、ロシアにおいていすゞ製商用車の輸入、製造、販売を行うCJSC SOLLERS-ISUZU(ソラーズ・いすゞ)の出資比率を上げ連結子会社化した。

具体的には、これまでに、いすゞが45%、PJSC Sollers(ソラーズ)が50%、双日(株)が5%を出資していたが、今回ソラーズが保有する50%の株式の内、いすゞが29%、双日が21%を取得したことで、いすゞ74%、双日26%の出資比率となった。

今回の連結子会社化により、いすゞは、今後成長が見込めるロシア市場において主体的に事業強化を行うことが可能となり、更なるいすゞ製商用車のブランド価値の向上と商品ラインナップ・販売の拡充を図るとしている。

### ■ソラーズ・いすゞの概要(2015年12月25日現在)

◇会社名…CJSC SOLLERS-ISUZU(SI)

◇所在地…ウリヤノフスク州

◇代表者…Fabrice Gorlier

◇主な事業株主…いすゞ74%・双日26%

◇事業内容…商用車・部品の輸入・製造・販売

◇資本金…550百万ルーブル



世界で活躍するいすゞのトラック

### 話題のニュートラック新製品情報・新情報

### 燃費合戦…三菱ふそう

## スーパーグレートV 2016年モデルを使用し 全国250社の運送事業者が「燃費合戦」を展開

三菱ふそうトラック・バス(株)(MFTBC)は、2016年1月から6か月間にわたり、ふそう製大型トラック「スーパーグレートV 2016年モデル」を使った、「燃費合戦～Fuel Grand Prix～」を開催する。

「燃費合戦～Fuel Grand Prix～」とは、ユーザーの日常業務でふそう製大型トラック「スーパーグレートV 2016年モデル」を使用し、同じ環境下で使用する従来型車両との燃費を比較することで、その燃費改善率を競う競技である。

公正なルールに基づき、日々の走行距離、軽油給油量、およびAdBlue(アドブルー=ドイツ自動車工業会の登録商標)給水量を計測し、燃費改善率を算出する。

全国から選ばれた、ふそう製トラックのユーザーのみならず、



Thomas Built Buses (Saf-T-Liner C2)



Thomas Built Buses (Saf-T-Liner FS-65)



他社製車両を使用するユーザーが、「スーパーグレート V 2016 年モデル」のリアルな燃費を実感できる絶好の機会だとしている。

実施期間は 2016 年 1 月～6 月の 6 か月間とし、それぞれのユーザーは 1 ヶ月間の燃費アタックに挑むことになる。MFTBC は 50 台の「スーパーグレート V 2016 年モデル」を提供し、各車両を 5 回の燃費アタックに使用し、合計 250 社のユーザーが燃費改善率を競うもの。

MFTBC の三輪為夫副社長・セールスジャパン本部長は、「『スーパーグレート V 2016 年モデル』は、燃費性能に優れた当社の自信作です。この“燃費合戦”は、お客様自身の運転で燃費性能を実感していただくことを目的としています。常日頃から省燃費運転に真摯に取り組まれているお客様だからこそ、この“燃費合戦”の意味をご理解いただけるものと考えております。私たちはこの大会を通じて、“スーパーグレート V 2016 年モデル”が挑戦者の皆様の予想を超える結果を出すことを期待しています」と述べている。

なお、計測結果については、随時 MFTBC ホームページ特設サイトでの公開が予定されている。また、競技に使用される車両は次の通りである。



スーパーグレート V 2016 年モデル「燃費合戦」特別仕様車

輸送現場に適合する 4 種の車型とデザインを用意



競技に使用する車両

車型	モデル	エンジン	トランスミッション	主な仕様	重量車モード 燃費値	提供 台数
FU	FU64VUZ3XVB	6R10 (T3)	12 段 AMT INOMAT- II	カーゴ エコドライブ パッケージ	4.25 km /L	15
FS	FS64VVZ3XVB					15
FP-R	FP64VDR4XK	6R10 (T4)	12 段 AMT INOMAT- II	セミトラクタ	3.25 km /L	5
	FP64VDR4XKV					10
FV	FV60VJXD3X	6R10 (T3)	7 段 MT	ダンプ	4.40 km /L	5

に対するお客からの要望に応えるため、ニーズの開拓や販売チャンネル拡大を推進している。

ヤマト運輸と ANA Cargo は、2014 年 5 月にパートナーシップを強化し、沖縄国際物流ハブを基点としたビジネスモデルの拡充をはじめ、日本全国の農水産品のアジアへの販路拡大や、越境 EC による「お取り寄せ」モデルを具現化するなど、新たな市場の開拓に取り組んでいる。

このたび、ISETAN (s)・ヤマト運輸・ANA Cargo は、越境 EC サイトでの高品質な日本の農水産品などの販売とシンガポールへのスピード輸送を実現し、日本の事業者・生産者の販売機会の創出と、シンガポールで新鮮な日本食を食べたいというニーズに応じて行く計画だ。

### ■取り組みの概要

(1)越境 EC サイトを新設…ISETAN (s)が「I ONLINE」上に越境 EC サイトとして「ISETAN JAPAN DIRECT」(<https://www.isetan.com.sg/t/categories>)を新設し、シンガポール

の消費者が気軽に日本の高品質な食材を購入することを可能にした。第一弾の食材として、福岡県産のイチゴ「あまおう」を販売。

(2)日本の旬な食材をスピード輸送…ヤマト運輸と ANA Cargo が提供する国際間の小口保冷輸送サービス「国際クール宅急便」などの輸送サービスを通して、高品質な日本産品をシンガポールの購入者の自宅まで、出荷から最短翌日の午前中に新鮮なまま届ける。なお、購入者の要望に応じて、最短翌日にシンガポールヤマト運輸の営業所で受け取ることも可能となっている。

### ■今後の展開

シンガポールの消費者が、より多くの日本産品を購入できるよう「ISETAN JAPAN DIRECT」の商品ラインナップを充実させる他、ISETAN (s)の店頭において、定期的に日本産品の試食会などのプロモーションイベントを実施し、日本産品の輸出拡大に取り組んでいくとしている。

## 話題のニュートラック新製品情報・新情報

## 軽量化製造システム…住友重機械工業

# 自動車ボディ・フレームの大幅な軽量化を実現する製造システム「STAF」を開発

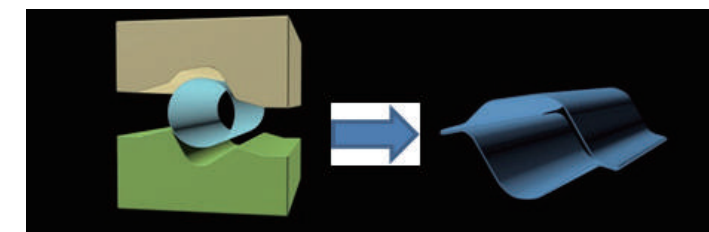
住友重機械工業(株)(別川俊介社長)は、自動車のボディやフレームなどの車体部品を大幅に軽量化できる製造システム、「STAF (スタッフ) (Steel Tube Air Forming)」を開発した。

STAF は鋼管をプレス機の金型にセットした後、通電加熱→高圧空気注入→成形→焼入れ、の工程を制御システムにより、フランジ(パイプの端に設けられている鋸状の部分)付き連続異形閉断面を高精度に成形加工できることが特長となる。(図 1 参照)

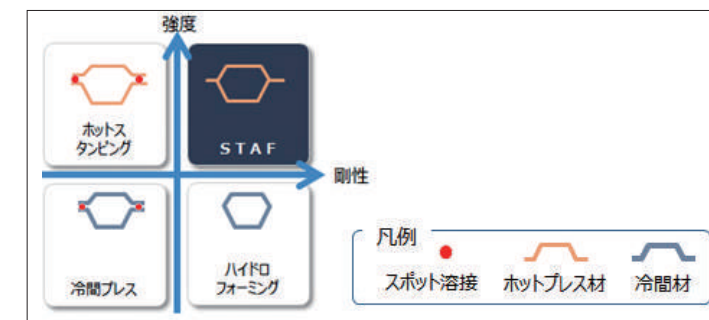
ハイドロフォーミング(プレス内の金型にパイプ形状の素材をセット後、型締めし、高圧の液体を充填し成形する工法)の連続した閉断面構造を成形できる機能と、ホットスタンピング(鋼板を高温で熱し、プレスで成形、焼入れする工法)の鋼板を加熱しプレス成形した後に焼入れし 1500 メガパスカル級の引張り強度に加工できる機能の両方の良い面を兼ね備えた、軽量かつ高強度・高剛性な閉断面部材の製造が可能となる。(図 2 参照)

さらに、世界初となるフランジ同時成形技術により閉断面構造をフランジ付きとすることで、今までハイドロフォーミングなどで課題とされてきた他部材との結合に必要な別物フランジと溶接工程を廃止させるなど、車体部

品に採用されやすい構造の提案ができるようになった。今後は、部位ごとに 980 から 1500 メガパスカルの引張り強度を制御できる局部焼入れ技術や、肉厚の異なるパイプを材料とした差厚成形技術の開発を進め、多くの自動車車体部品に適用可能となる技術の確立を目指すとしている。



【図 1】連続異形閉断面を高精度に成形加工



【図 2】STAF の位置づけ(概念図)

## 話題のニュートラック新製品情報・新情報

## 越境 EC 事業…ヤマト・伊勢丹・ANA

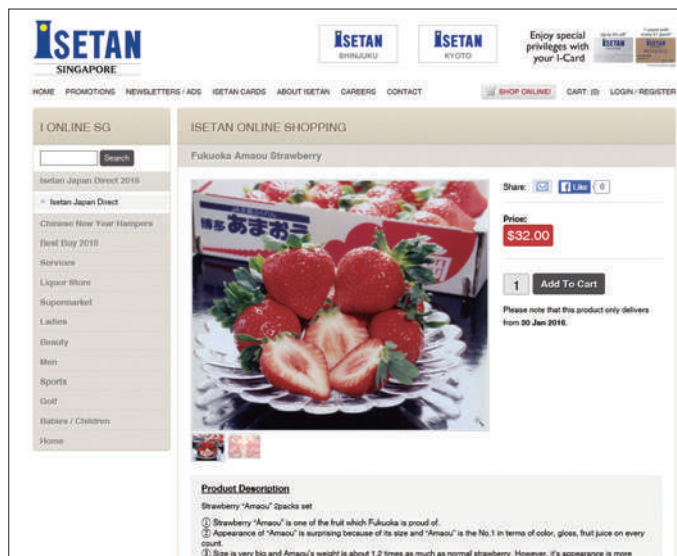
# 伊勢丹シンガポールとヤマト運輸、ANA Cargo が越境 EC 事業を開始 シンガポールで日本食材の「お取り寄せ」を実現

(株)三越伊勢丹ホールディングス傘下の伊勢丹シンガポール (ISETAN(S)) とヤマトホールディングス傘下のヤマト運輸(株)、ならびに(株) ANA Cargo は、2016 年 1 月 9 日に、ISETAN (s) の EC サイトである「I ONLINE」上で、越境 EC サイト「ISETAN JAPAN DIRECT」を新設し、日本の旬な農水産品などの食材をシンガポールの消費者まで届ける「お取り寄せ」モデルをスタートさせた。

近年、東南アジアの EC 市場は、インターネットの普

及に伴い、急成長を遂げ、世界で最も速いペースで成長している市場である。なかでもシンガポールは、東南アジア随一の経済力を背景に、EC を通じて高品質な日本の農水産品などの食材を「お取り寄せ」したいというニーズが高まっている。

ISETAN (s) は、2009 年に EC サイト「I ONLINE」を立ち上げている。2016 年で創業 44 年目を迎えるシンガポールで最も歴史のある日系百貨店として、今後更に高まる高品質な日本の食材



越境 EC サイト「ISETAN JAPAN DIRECT」